

子宮内膜ポリープと言われたら・・・ 子宮鏡下手術について

子宮鏡検査や超音波検査などで、「子宮内膜ポリープ」や「粘膜下子宮筋腫」などと診断されたら、どのような治療法があるのでしょうか。

「子宮内膜ポリープ」や「粘膜下子宮筋腫」の全てに治療が必要なわけではありませんが、治療法のひとつをご紹介します。

◆子宮鏡下手術(経子宮頸管的手術)について◆

子宮鏡下手術は、子宮頸管よりレゼクトスコープというカメラを挿入してテレビ画面を見ながら行う手術です。

レゼクトスコープを用いて粘膜下子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、中隔子宮、子宮腔癒着症などの子宮腔内病変を治療することができます。

1. 粘膜下子宮筋腫

子宮内腔に突出するように発生した子宮筋腫を言います。

2. 子宮内膜ポリープ

大きさは粘膜下子宮筋腫より小さく、多発することが多いとされています。

3. 中隔子宮

不育症の原因となりうるため、子宮鏡下手術が選択されることがあります。

4. 子宮腔癒着症

着床障害として不妊の原因となります。子宮鏡下に癒着部を剥離する手術が選択されることがあります。

◆手術方法◆

1. 手術の約3時間前に、子宮頸管内にラミナリア桿を挿入して頸管の軟化と拡張を図ります。

2. 静脈麻酔と吸入麻酔を併用して行います。

3. 子宮腔内に灌流液を注入して子宮腔内の病変との間に空間を作って手

術を行います。

切開波・凝固波をレゼクトスコープ先端の半円形のループ電極に流して、病変を切除・止血します。

4. 術後に摘出標本をお見せします。

当クリニックでは日帰り手術で行っております。他院様へご通院されている方もどうぞお気軽にご相談下さい。